

新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン

特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会 (IVUSA)

2020年6月23日

2020年10月21日更新

2021年5月17日更新

2021年9月10日更新

2022年2月24日更新

2022年5月25日更新

2022年10月6日更新

2023年3月13日更新

【目次】

1. はじめに
2. 活動実施の可否について
 - (1) クラブの活動等について
 - (2) 法人の活動等について
 - (3) 事務所の利用について
 - (4) 宿泊を伴う活動等について
3. 各種活動実施時のチェックリスト
 - (1) 共通事項
 - (2) 移動時
 - (3) 屋内イベント
 - (4) 屋外イベント
 - (5) 宿泊
 - (6) 運営者向け
4. 手洗い・うがい・消毒について
5. マスクについて

1. はじめに

活動等を実施していく際の感染拡大予防のための留意点について、政府等の情報を参考にガイドラインとしてまとめました。活動を実施する際は、本ガイドラインや自治体・政府が発表している情報、大学や利用施設のガイドライン等に沿って活動等を展開していただくようお願いします。

2. 活動実施の可否について

前提として、感染状況にかかわらず、カウンターパート(活動受入先)と実施について合意のうえで、活動等を実施してください。また、手洗い・うがい・咳がある人や風邪のような症状がある人のマスク着用・換気等、基本的な感染症対策を実施してください。

またカウンターパートから要請があった場合は、事前のPCR検査や、マスク着用をしてください。

※PCR検査への補てんは、令和4年度で終了(令和5年度以降は必要に応じて活動ごとに予算計上する)

(1) クラブの活動等について

大学の部活・サークル・愛好会等(登録団体)として活動する場合は、大学の課外活動に関する指針を順守してください。

IVUSA のクラブとして活動する場合も、大学の課外活動に関する指針を参考にし、本ガイドラインを順守してください。

実施に関して判断に迷う場合は、事務局員に相談してください。

(2) 法人の活動等について

活動先の自治体が出している方針に従って、実施可否・規模・期間等をカウンターパート(活動受入先)と調整し、その都度決定していきます。

※法人の事業に参加する場合は、あくまで個人の責任と判断で決定してください。

(3) 事務所の利用について

事務所の利用に関しては、これまで通り役員掲示板の「事務所予約スレ」と「予約システム (RESERVA)」で予約を行い、事前に事務局員に連絡してください。

① 事務所管理担当事務局員

宮坂事務所：三浦慎爾

高槻事務所：深山恭介

※連絡先は役員掲示板を確認ください。

② 事務所利用時注意事項

- ・利用する際は、入室時と退室時にそれぞれ「名前」「入室時間・退室時間」を事務所にある受付表に記入してください。

3. 各種活動実施時のチェックリスト

感染拡大予防のため、(1)共通事項、(2)移動時、(3)屋内イベント、(4)屋外イベント、(5)運営者向けにわけ、チェックリストを作成しました。記載事項を順守し、活動等に取り組んでください。

(1) 共通事項

- 濃厚接触者になり、その待機期間ではない
- 風邪のような症状をはじめとする体調不良はない
 - ※咳やのどの痛み
 - ※息苦しさ
 - ※倦怠感(心身のだるさ、疲れ)
 - ※嗅覚や味覚の異常
- 平熱である(外出する前に検温する)
- 可能なら携帯用の消毒液を持参し、適時使用する
- 行動ごとに小まめに手洗い・手指消毒をする

帰宅後は早めにうがい・手洗いや入浴し、極力自宅にウイルスを持ち込まないようにする

(2)移動時

- 各公共交通機関のガイドライン（アナウンス）を順守する
- 集団で移動する際は、必要なこと以外の会話は最小限にする
- 移動手段ごとに下記の点に注意して行動する

①貸切バス

- 連絡事項等はマイクを使い、大声を出さないようにする
- 車内の換気は乗務員の指示に従う
- 乗車定員はバス会社のガイドライン等を順守する
- あらかじめ座席表を作成し、着席位置を極力固定する
 - ※新型コロナ陽性者がいた場合、濃厚接触者を特定するために誰がどこに座っていたか明確にする必要がある

②公共交通機関(主に電車・バス)

- 大人数で電車に乗る場合、乗車する車両を分散する

③レンタカー・乗用車

- エアコンは外気導入にし、風量を“中”以上にする
 - ※一般道走行時に少し窓を開けている程度ではあまり換気がされない
- 原則、乗車メンバーと座席位置を固定する

(3)屋内イベント

- 換気扇がある場合は換気扇を使用し、休憩時間には窓を開け換気する
- 退出する際に、スイッチやドアノブ、使用した机やイスなどを消毒する

(4)屋外イベント

- 屋内で休憩をする際は、屋内イベントのチェックリストを順守する

(5)宿泊

- 宿泊施設のガイドライン等を順守する
- 部屋割りの名簿を作成する
- ミーティングを行う際は、屋内イベントのチェックリストを順守する
- 体調不良者が発生した場合の個室を確保できるように調整する
- チェックアウト時は清掃とともにドアノブ・スイッチ・机・イスなどを消毒する

(6)運営者向け

①オフラインで実施するかどうか、下記のポイントについて検討する

- オフライン(対面)で行う必要性について、カウンターパート(活動受入先)と合意をとる
- 各自治体・企業・施設等のガイドライン等を順守する
- 参加者に上記チェックリスト等感染対策を徹底させる

②オフラインで実施する場合

【事前の準備】

- 必要に応じて石鹸、消毒液、予備のマスクを用意する
- 平熱を把握していない人は、普段から体温を測り平熱を把握しておく

【当日】

- 外部の施設等を使用する際は、当該施設のガイドラインを順守する
- 自宅を出る前に、発熱や風邪の症状、倦怠感、咳、咽頭痛などの普段と異なる体調の変化を感じた時は、参加を見合わせるよう参加者に周知する。
- 感染者が出た際に、濃厚接触者や消毒の対象となる場所を特定できるようにするために、下記のポイントを記録することを推奨する(普段プロジェクトで行っている時系列の記録や、広報による写真撮影などをベースにして記録)

●対象(オフラインのもの)

- ・クラブ会
- ・クラブ運営会議
- ・クラブ事業
- ・IVUSA 本部の各部署の会議
- ・本部役員会
- ・経営戦略会議
- ・プロジェクトの準備に関わる、職員やプロジェクト幹部が主催する会議(想定会議・カウンターパートとの調整など)
- ・プロジェクト等本部主催事業
- ・研修

※上記を除く活動や会議などについても記録することを推奨

●ポイント

- ・活動中の行動履歴を記録する(時系列：いつからいつまで、どこに、誰が滞在したか)
- ・参集者を記録する(会員以外も記録し、所属や人数だけでなく名前も記録)
 - × IVUSA 3名
 - IVUSA 3名(A 大学 田中太郎、B 大学 鈴木一郎、C 大学 中村次郎)
- ・会議や屋内イベントでは、席次を記録する(写真でも可)

※誰がどこに座っているか特定できるようにするため、写真は多めに撮影し、顔と名前が一致するようにする。

【その他】

- 活動等で使用した装備を、数日以内に他の活動等で使用する場合は、使用した装備も消毒する
- 参加費を当日集金する際は、参加者に協力を求めお釣りがでないよう事前にアナウンスをする

4. 手洗いと消毒について

(1)手洗い

以下の手順で、石鹸で15秒、流水で10秒かけて、洗う。
2回繰り返すことでさらに効果がある。

- ①流水で良く手を濡らす
- ②石鹸をつけ、手のひらでよくこする
- ③手をひらと手の甲を重ね、伸ばすようにこする
- ④指先・爪の間を念入りにこする
- ⑤指の間を洗う(付け根もしっかりと)
- ⑥親指をねじり洗いする
- ⑦手首も洗う
- ⑧しっかりと流水で洗い流す
- ⑨自分のハンカチかペーパータオルで良くふき取る
- ⑩できれば①～⑨をもう一度行う

参考：厚労省資料 <https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000593494.pdf>

※手洗いができる場所では、うがいも行う

(2)うがい

手洗いをした際に、一緒にうがいも行う。

(3)手指のアルコール消毒

手指のアルコール消毒をする際に必要な消毒液の量は3ml程度と言われている。

目安として、ポンプ式の場合は、1回しっかりと押し込んで出た量が3ml程度。

または、手に揉み込んだ後15秒以内に乾かない程度の量が必要。

消毒液を手につけた後は、指先からすりこみ、その後手洗いと同様の手順でまんべんなく消毒液をすりこむ。

参考：厚労省資料 <https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000334134.pdf>

(4)ドアノブやスイッチなどの消毒

ドアノブや電気のスイッチ、机やイスなどの消毒には、次亜塩素酸ナトリウム液を含ませたタオル等で拭き取ることによって消毒ができる。

会議や活動等で使用する場所や道具は、使用前後に消毒する。

拭く際は、一方方向のみで拭き、往復拭きはしない。

【0.05%以上の次亜塩素酸ナトリウム液の作り方(例)】

●花王

- ・ハイター 水1L に本商品 25mL (商品付属のキャップ 1 杯)
- ・キッチンハイター 水1L に本商品 25mL (商品付属のキャップ 1 杯)

●カネヨ石鹼

- ・カネヨブリーチ 水1L に本商品 10mL (商品付属のキャップ 1/2 杯)
- ・カネヨキッチンブリーチ 水1L に本商品 10mL (商品付属のキャップ 1/2 杯)

●ミツエイ

- ・ブリーチ 水1L に本商品 10mL (商品付属のキャップ 1/2 杯)
- ・キッチンブリーチ 水1L に本商品 10mL (商品付属のキャップ 1/2 杯)

参考：厚労省資料 <https://www.mhlw.go.jp/content/000617981.pdf>

※スマートフォンは移動中・外出先・自宅など、様々な環境で使用するため、手洗いや消毒同様、小まめにアルコール綿などで清拭する。

5. マスクについて

不織布マスク、布マスク、ウレタンマスクなど、様々な素材でできたマスクが販売されていますが、ウイルス飛沫を飛ばさない・吸い込まない効果が最も高いのは不織布マスクです。ウレタン製のマスクは感染予防にはほとんど効果がないとされています。

不織布マスクを着用できない理由がない方は、特に屋内・車内では不織布マスクを着用しましょう。また、屋外などで比較的換気が良く、人との距離が十分確保できる場合でも、熱中症等に留意しながら極力不織布マスクを着用しましょう。

なお、不織布マスクは、VFE(Viral Filtration Efficiency・ウイルスろ過効率)、PEF(Particle Filtration Efficiency・微粒子ろ過効率)、BFE(Bacterial Filtration Efficiency・バクテリア(細菌)ろ過効率)といった飛沫捕集性能の基準があります。特にVFEとPFEが小さな飛沫を捕集できるため、商品パッケージに「VFE99%」「PFE99%」といった記載があるものを選ぶようにしましょう。

※不織布マスクの着用を義務付ける意図はありません。

また、マスクは隙間なく着用することでその効果が得られます。ノーズフィッター(鼻部分のワイヤー)を「W字折り」し、顎下まで覆い、隙間なく着用しましょう。

V字折り



W字折り

